

父母の養育態度の形成と評価に関する研究

(分担研究：小児期の成長・発達と養育条件に関する
医学的、心理学的及び社会学的研究)

高橋種昭¹⁾、高野 陽²⁾、小宮山要³⁾
新道幸恵²⁾、大日向雅美⁴⁾

要約 沖縄県石垣島に在住する1歳6か月児を持つ母親64人と3歳児を持つ母親99人について育児不安、日常生活感情、育児についての母親の役割意識、夫婦関係、日常の対人関係等を質問紙によって調査し検討した。得られた結果の主なものは以下の通りである。

- (1) 育児不安については、1歳6か月児では体の発育に、3歳児では性格、健康、知能等に不安を持つ者が多い。相談相手は主人が一番多いが、一緒に考え一緒に改善への努力をしてくれる主人はすくない。また、自分の育児能力についての不安は多くの者にみられ、とまどいを示している。
- (2) 日常生活感情については、両群の母親とも、いらいらしたり、あせったり、毎日がなんとなく面白くないという者が多い。特に3歳児を持つ母親には、生きているという張り合いがない、育児がわずらわしいと答えている者が10%強みられる。
- (3) 夫婦関係については、両群の母親とも主人と一緒にいても心がなごまない、言いたいことははっきり言えない。話をしている楽しくない等と答えている者が10%台の割合でみられる。特にこの傾向は3歳児を持つ母親に顕著である。
- (4) 母親の役割意識については、両群の母親とも子供が小さいうちは母親は家において育児に専念するのがよいという育児への強い役割意識と、男性も積極的に育児に参加すべきであるという育児への平等意識が強く示されている。特に前者は3歳児を持つ母親に顕著である。
- (5) 母親の対人関係については、両群の母親とも主人を心から信頼できず、一緒にいても楽しく話もできず、一緒に行動しても楽しくなく、つらいとき困った時でも相談できず、主人の為にはできるだけのことはしてあげたいとは思わない、と答えている者が20%~30%みられ、冷めた眼で主人との関係をみている者が多い。この傾向は3歳児を持つ母親に顕著である。

見出し語：育児不安、夫婦関係、役割意識

研究目的

前年度においては、父親の育児や家事への参加の実態を把握すると共に分献による父子関係

の研究を実施し、現代家族における親子関係がどのような関係にあるかを明らかにしたが、今年度は、親子関係の発達形成に好ましくないものとして常に考えられている母親の育児不安に焦点をあて、夫婦関係や母親の精神衛生など家庭内における人間関係や成員の意識、精神状態などがそのものに如何様に関わっているかを明らかにする事にした。育児不安については、今

- 1) 日本女子大学
- 2) 国立公衆衛生院
- 3) 桜美林短期大学
- 4) 彰栄保育専門学校

までに多くの研究がなされているが、多くは不安の単なる実態の記述に止まっているものであり、前記の如き家族内の諸要因そのものとの関連を実証的に捉らえたものは少ない。今回の我々の研究は、育児不安とその背景的要因との関連を実証的に明らかにしようとするものである。

研究方法

今年度はまず本格的な調査を行う前の準備的調査を沖縄県の石垣島に於いて行い、その結果に基づいて父母を対象にした夫婦関係や父母の役割意識、精神状態などと育児不安に関する質問紙を作成し、東京、秋田、神奈川の三地域に於いて調査を実施した。

沖縄に於いて調査を行った理由は、準備的調査であると同時に、本州など他の地域ではあまりみられない特徴を、その生活や文化の中に多くもち、従来多く行われていたどちらかといえば画一的な生活や文化を持った所での調査では得られない資料が取得でき、今後の研究の発展に寄与する所が大である事が考えられたからである。

沖縄県全体としてみると、本土復帰後母子保健活動は活発に行われ、多くの改善がみられ、子どもの身体面の健康や発育については非常な向上がみられる。しかし、養育にかかわる心身の問題や精神発達に関する問題に対しては、必ずしも十分な対応がなされているとはいえない状態にある。

今回の調査対象地の石垣島は沖縄本島から更に海上約600km離れた離島であり、人口は約5万人で全島一市である。島を大きく区分すれば、いわゆる市街地とその周辺部の地域に分けられる。後者は主として農業、漁業で生計もたてている地域である。人口は市街地に多いが、周辺部にも大きな部落が各地域にあり、いわゆる一軒家が点在するような地域は比較的少ない。

母親については、沖縄の女性は勤勉でよく働くといわれているが、石垣島の母親も仕事を持っているものが多く、調査対象とした母親の多くも有職である。それ故、子どもは保育所（私立・無認可も多く、特に乳児保育にその傾向が強い）。家族形態は市街地では核家族が多く、

時には家の近くに両親の住むものもいる。今までは親同士の結びつきも強く、交流が多く行われてきたが、最近では保健指導などでの相談事に、身体面より精神面の内容や養育に関する相談が増えてきており、都会地の母親と共通のものがみられるようになってきている。他の離島より石垣島の母親にその傾向が強く、早い時期からそうした変化がみられている。

現在は子どもの数も少なくなっているが沖縄、特に石垣島の出生率は他の地域に比べれば高い。そして、子どもの数が多い事に対する苦情も以前はきかれなかったが近年では育児に関する悩みの内容も都会の母親のそれと同じようなものになってきている。沖縄には「門中」という家族制度があり、同族集団の結束は固く、離婚した家族や精神疾患の家族を抱えた家庭への援助も活発に行われていたが、現在では必ずしも「門中」としての援助も多いとはいえぬ状態になってきている。しかし、祖父母の核家族の母親への援助は相変わらず多く行われている。

母子保健活動については、本土と同じようになされているが、保健活動には特徴も多くみられる。その一つが保健所保健婦の駐在制である。石垣島において実施されている。特に周辺地域では保健婦が住み込んで活動しており、住民と連携もとれ易く、情報も多くとれるなど母親への援助も円滑に行われている。しかし、乳幼児の健康調査は厚生省派遣による一斉健康調査に依存しており、駐在制という特徴のある地域に制度をもちながら問題の解決を一斉保健調査に頼るという現象が最近においてはみられるようになってきている。また、医療機関の数も増えつつあり、身体面の問題はかなり減っているが心の問題に対する対応はまだまだ遅れる傾向がみられ、保健婦達も地域内の医療機関や関係施設での解決を図る努力に欠けていた。何れにしても、沖縄本島との距離が離れている事は保健医療面においても大きな支障となっている。また、亜熱帯性気候といっても水不足に悩まされたり、台風にしばしば見舞われたり住民の生活条件は決して楽とはいえぬ状態の中で子どもの養育が行われていたわけである。そうはいうものの、石垣島の乳幼児の身体発育は以上のような

な状況の中で年々向上し、近年では全国平均に近い状態にまでなっている。疾病罹患も、感染症、皮膚疾患が目立つものの10年前と比べれば非常に改善されている。それは生活環境、衛生環境の向上、特に水の供給の改善、冷房機器の普及などによるといっておかろう。また、流通機構も良くなり、食料品も豊富になり、以前からの琉球風と米軍の影響を受けた食生活に加えて新しい『日本食』も多くなっている。離乳食や乳児食の改善もみられた。その結果、栄養摂取も向上し、それが体位の向上につながった事はいうまでもない。保健面の向上はう歯の減少にもみられるが、この事も親の健康意識の向上によるものといえよう。

以上のように石垣島の母子保健の現状は、めざましい社会変動の中で大きな向上がみられたわけであるが、同時に本土の都会の子ども達にみられる保健問題が同じようにみられるようになっている事は否定できない。

調査は1歳6か月児健康調査と3歳児健康調査に来所した母親を対象にした質問紙調査を昭和62年8月に行った。調査の内容は次の如きものである。

調査内容

調査は1歳6か月児を持つ母親と、3歳児を持つ母親に対して質問紙法によって実施した。調査内容についての枠組みは次の通りである。

質問紙(チェックリスト)

1) 育児不安(9内容)

調査対象児について知能、言語、性格、集団生活、運動能力、健康、体の発育、自分自身の育児能力等について不安の有無を尋ねた。不安有りとなされた内容については、6つの関連質問がなされている。

- イ) その不安はどのようなものですか
- ロ) その不安はどの程度ですか
- ハ) いつ頃からその不安は続いていますか
- ニ) その不安を誰かに相談したり調べたりしましたか
- ホ) 今どのようにしていますか
- ヘ) ご主人はあなたの不安にどの様な態度を示していますか

- 2) 日常の生活感情(9項目)
- 3) 育児についての母親の役割意識(6項目)
- 4) 夫婦関係(7項目)
- 5) 日常の対人関係(7項目)

分析の視点

分析に当たっては、各内容・項目ごとに1歳6か月児の母親と3歳児の母親の反応を単純集計により比較検討した。

調査結果

1. 育児不安の内容

(1) 知能についての不安

1歳6か月児の知能について不安を持っている母親は10人で、不安の相談相手は主人と答えた者が6人、自分の母親が2人の順になっている。不安への対応としては、自分で解決しようと努力している者が7人と多い。またどうしてよいか分からないと答えている者も3人いる。

このような不安に対して夫の態度は、一緒に考え一緒に改善に努力してくれると言う者と、気がむかかないと一緒に考えてくれないと言うものが5人ずついる。ここに妻の孤立の一面をうかがうことができる。

3歳児では22人の母親が不安を答えている。不安の相談相手は、主人が14人と多いが、誰にも相談しない者が5人いる。

(2) 言語についての不安

1歳6か月児では、10人の母親が不安を持っている。不安の相談相手は主人が6人でその他の人には集中がみられない。しかし、主人に相談しても気が向かないと一緒に考えてくれないという者が6人と多い。そこで不安への対応は自分で解決しようと努力している者が7人となっている。

3歳児では17人で、不安の相談相手は主人という者が14人と多いが気が向かないと一緒に考えてくれなかったり、全く関心を示さない者が半数を占めている。

(3) 性格についての不安

3歳児では30人と不安を持つ親は多く、相談相手は主人という者が18人である。母親の不安に対して一緒に考え一緒に改善への努力をしてくれる主人は12人で、全く関心を示さなかった

り不機嫌になったりする者も4人みられる。

(4) 集団生活についての不安

集団生活についての不安は3歳児の26人にみられ、その相談相手が主人という者は13人である。母親の不安に対する主人の態度は、13人の者が全く関心を示さないか、あるいは気がむくと一緒に考えてくれるという消極的な態度を示している。

(5) 運動能力についての不安

1歳6か月児の運動能力については、8人に不安がみられ主人(4人)と自分の母親(4人)に相談している。母親の不安に対する主人の態度は4人の者が一緒に考え一緒に改善への努力

をしてくれると答えている。

3歳児では16人が不安を感じており11人が主人に相談している。しかし、不安に対する主人の態度は、一緒に考え一緒に改善への努力をしてくれると答えている者は2人だけである。

(6) 自分の育児能力についての不安

1歳6か月児を持つ母親のうち、自分の育児能力に不安を持つという者は24人と38%に達している。それらの不安を相談する相手として、主人が16人、知人・友人が5人、近所の人2人の順になっている。母親の不安に対する主人の態度は、12人が一緒に考え一緒に改善への努力をしてくれると答えている。

表1 日常生活感情(1歳6か月児の母親)

(%)

	全く感じ ない	あまり感 じない	時々感じ る	いつも感 じる	合計
毎日がなんとなくお もしろくない	11	33	17	0	61
なんとなくいらいら する	18.0	54.1	27.9	0.0	100.0
ひとりぼっちでさみ しい	8	27	26	0	61
生きていくという張 りあいがない	13.1	44.3	42.6	0.0	100.0
自分のやりたいこと ができなくてあせる	35	20	7	0	62
なにをしたいのか自 分でもわからない	56.5	32.3	11.3	0.0	100.0
育児がわづらわしい	26	31	4	0	61
子供がかわいく思え ない	42.6	50.8	6.6	0.0	100.0
自分は母親として不 適格なのではないか	9	23	29	1	62
	14.5	37.1	46.8	1.6	100.0
	23	25	11	0	59
	39.0	42.4	18.6	0.0	100.0
	20	34	7	0	61
	32.8	55.7	11.5	0.0	100.0
	47	12	0	0	59
	79.7	20.3	0.0	0.0	100.0
	17	25	19	0	61
	27.9	41.0	31.1	0.0	100.0

3歳児を持つ母親では39人(39%)が自分の育児に不安を感じている。不安を相談する相手として主人は19人、知人・友人4人、自分の母親、きょうだい、近所の人各2人の順になっている。

(7) 健康についての不安

1歳6か月児の健康について不安を持っている母親は10人である。それらの不安の相談相手としては主人が6人、医師が2人の順である。しかし、不安に対してどうしてよいか分からないという者は5人もおり、その上改善への主人の協力も得られないために、不安を増大させていると思われる。3歳児では25人の母親が不安

を示している。不安の相談相手は主人という者が13人、医師が5人、自分の母親4人の順になっている。

(8) 体の発育についての不安

1歳6か月児の体の発育について不安を持っている母親は12人で、主人に8人が相談しその全員が一緒に考え一緒に改善への努力をしている。

3歳児を持つ母親では、不安を持っている者は15人で、相談相手は主人が10人、医師が2人保健婦、自分の母親となっている。母親の不安に対して不機嫌になって怒りだす主人もみられる。

表2 日常の生活感情(3歳児の母親)

(%)

	全く感じ ない	あまり感 じない	時々感じ る	いつも感 じる	合計
毎日がなんとなくおもしろくない	15	43	30	1	89
なんとなくいろいろする	16.9	48.3	33.7	1.1	100.0
ひとりぼっちでさみしい	11	36	43	2	92
生きているというはりあいがない	12.0	39.1	46.7	2.2	100.0
自分のやりたいことができなくてあせる	52	27	6	3	88
なにをしたいのか自分でもわからない	59.1	30.7	6.8	3.4	100.0
育児がわづらわしい	44	34	9	2	89
子供がかわいく思えない	49.4	38.2	10.1	2.2	100.0
自分は母親として不適格なのではないか	19	26	40	7	92
	20.7	28.3	43.5	7.6	100.0
	38	37	13	0	88
	43.2	42.0	14.8	0.0	100.0
	29	45	15	0	89
	32.6	50.6	16.9	0.0	100.0
	69	17	1	0	87
	79.3	19.5	1.1	0.0	100.0
	30	31	27	4	92
	32.6	33.7	29.3	4.3	100.0

日常の生活感情

母親の日常の生活感情を9項目について尋ねた結果が表1、2に示されている。1才6か月児を持つ母親についてみると自分のやりたいことが出来ずにあせりを感じたり(48%)、なんとなくいらいらしたり(43%)、自分は母親として不適合なのではないかと感じたり(31%)、毎日がなんとなく面白くないと感じている(28%)母親が多く見られる。これらの結果からみて、1歳6か月児を持つ母親の日常生活は、不満と緊張に満ちた育児病理を内在している者が多いといえる。同様に、3歳児を持つ母親について見ると1歳6か月児を持つ母親と類似の傾向を示している。内容について見ると、ひとりぼっちでさみしい、何をしたいか自分でもわからない等の2項目を除いては、3歳児の母親に高い価が示されている。特に、生きているという張

り合いがない、育児がかずらわしい等の項目には10%強の価がみられ、後述する夫婦関係の不調から来るいらだちを読み取ることができる。

夫婦関係

夫婦関係を7項目について尋ねた結果が表3、4に示されている。1歳6か月児を持つ母親について「その通り」という答えをみると、30%台の価を示している項目が多い。40%台の価を示している項目は、互いに信頼しあっている、相手のために出来るだけのことをしたい等の2項目だけである。これらの価に「どちらかというところである」という答えを合わせると、よく一緒にでかけるといふ1項目を除いた他の全ての項目は80%台の価を示している。一方、「どちらかというところと違う」あるいは「違う」と答えている者についてみると、一緒にいると心がな

表3 夫婦関係(1歳6か月児の母親)

(%)

	その通り	どちらかというところ	どちらかというところと違う	違う	合計
よく一緒にでかける	17	31	13	1	62
	27.4	50.0	21.0	1.6	100.0
一緒にいると心がなごむ	21	35	5	1	62
	33.9	56.5	8.1	1.6	100.0
言いたいことをはっきり言いあえる	20	33	6	3	62
	32.3	53.2	9.7	4.8	100.0
話をしている楽しい	18	36	4	2	60
	30.0	60.0	6.7	3.3	100.0
つらい時困った時たがいに助けあえる	24	32	3	3	62
	38.7	51.6	4.8	4.8	100.0
互いに信頼しあっている	25	31	2	2	60
	41.7	51.7	3.3	3.3	100.0
相手の為に出来るだけのことをしたい	26	33	1	2	62
	41.9	53.2	1.6	3.2	100.0

どむ、言いたいことをはっきり言い合える、話を
 して楽しい、等の項目には夫婦関係の不
 調が示されている。

特に、一緒にいるといらいらしたり緊張が高
 まったりする夫婦関係は、子供の心をも不健康
 にしてしまうことから、夫婦関係を正常化させ
 するための働きかけが工夫される必要がある。

同様に3歳児の母親についてみると、「その通
 り」と答えている者のうち、つらい時困った時
 互いに助け合えるの1項目は57%と高い値を示
 し、1歳6か月児を持つ母親よりも夫婦の強い
 協力関係を示している。また、よく一緒に出か
 ける、相手のために出来るだけの事をしたいと
 答えている者も1歳6か月児を持つ母親よりも
 多くなっている。

「その通り」と「どちらかといえばそうである」
 と答えた者を合わせると、1歳6か月児の母親

と同様に、いずれの項目も80%以上の値を示し
 ている。しかし、「どちらかという違う」ある
 いは「違う」と答えた者を合わせると、よく一
 緒にでかける、一緒にいると心がどむ、言いた
 いことをはっきり言い合える、話をして楽し
 い等の項目に10%台の1歳6か月児の母親
 よりも高い値がみられ、3歳児を持つ母親にも
 夫婦関係の不調が示されている。このような夫
 婦関係の上に、前述した子供の発達障害がみら
 れたり、発達障害と思いきいで悩んだり不安に
 なったりすると育児を拒否したり、放棄したり
 する危機が促進され悲劇的な事態が起こること
 も予想される。

育児について母親の役割意識

母親の役割意識を6項目について尋ねた結果
 が表5、6に示されている。1歳6か月児を持

表4 夫婦関係（3歳児の母親）

					(%)
	その通り	どちらかとい うとそう	どちらかとい うと違う	違う	合計
よく一緒にでかける	32	41	11	6	90
	35.6	45.6	12.2	6.7	100.0
一緒にいると心がな どむ	26	53	9	2	90
	28.9	58.9	10.0	2.2	100.0
言いたいことをはっ きり言いあえる	29	46	12	2	89
	32.6	51.7	13.5	2.2	100.0
話をしている楽しい	30	46	10	2	88
	34.1	52.3	11.4	2.3	100.0
つらい時困った時た がいに助けあえる	51	32	5	1	89
	57.3	36.0	5.6	1.1	100.0
互いに信頼しあって いる	40	45	5	1	91
	44.0	49.5	5.5	1.1	100.0
相手の為に出来るだ けのことをしたい	44	40	5	0	89
	49.4	44.9	5.6	0.0	100.0

表5 育児についての母親の役割意識（1歳6か月児の母親）

(%)

	賛成	どちらかとい うと賛成	どちらかとい うと反対	反対	合計
子供が小さいうちは母親は家において育児に専念するのがよい	29	23	10	0	62
育児は女性の役割である	46.8	37.1	16.1	0.0	100.0
妻だから母だからといって家事や育児にだけ専念していたのでは、人間として成長できない	11	24	18	9	62
男性も積極的に育児に参加すべきである	17.7	38.7	29.0	14.5	100.0
妻だから母だからといって家事や育児にだけ専念していたのでは、人間として成長できない	14	28	15	5	62
男性も積極的に育児に参加すべきである	22.6	45.2	24.2	8.1	100.0
子供に対する母親の愛情には父親といえどもかなわない	46	14	0	0	60
母親の愛情といえども子供にとって必ずしも望ましいとはかぎらない	76.7	23.3	0.0	0.0	100.0
子供に対する母親の愛情には父親といえどもかなわない	19	25	13	2	59
母親の愛情といえども子供にとって必ずしも望ましいとはかぎらない	32.2	42.4	22.0	3.4	100.0
子供に対する母親の愛情には父親といえどもかなわない	9	28	8	13	58
母親の愛情といえども子供にとって必ずしも望ましいとはかぎらない	15.5	48.3	13.8	22.4	100.0

表6 育児についての母親の役割意識（3歳児の母親）

(%)

	賛成	どちらかとい うと賛成	どちらかとい うと反対	反対	合計
子供が小さいうちは母親は家において育児に専念するのがよい	54	36	5	0	95
育児は女性の役割である	56.8	37.9	5.3	0.0	100.0
妻だから母だからといって家事や育児にだけ専念していたのでは、人間として成長できない	17	28	38	9	92
男性も積極的に育児に参加すべきである	18.5	30.4	41.3	9.8	100.0
妻だから母だからといって家事や育児にだけ専念していたのでは、人間として成長できない	30	31	24	6	91
男性も積極的に育児に参加すべきである	33.0	34.1	26.4	6.6	100.0
子供に対する母親の愛情には父親といえどもかなわない	66	20	6	0	92
母親の愛情といえども子供にとって必ずしも望ましいとはかぎらない	71.7	21.7	6.5	0.0	100.0
子供に対する母親の愛情には父親といえどもかなわない	31	25	26	8	90
母親の愛情といえども子供にとって必ずしも望ましいとはかぎらない	34.4	27.8	28.9	8.9	100.0
子供に対する母親の愛情には父親といえどもかなわない	21	33	22	13	89
母親の愛情といえども子供にとって必ずしも望ましいとはかぎらない	23.6	37.1	24.7	14.6	100.0

つ母親についてみると、「賛成」と答えている者の割合が高い項目は、男性も積極的に育児に参加すべきである（77%）、子どもが小さいうちは母親は家にいて育児に専念するのがよい（47%）、子どもにたいする母親の愛情には父親といえどもかなわない（32%）等の順になっている。これらの数値に「どちらかという賛成」と答えた者を合わせると70%以上の価がみられ、高い賛成率を示している。

これに対して、反対者の割合をみると、育児は女性の役割である（44%）、母親の愛情といえども子どもにとって必ずしも望ましいとはかぎらない（36%）、妻だから母だからといって家事や育児にだけ専念していたのでは人間として成長できない（32%）等の順になっている。同様に、3歳児を持つ母親についてみると、「賛成」と答えている者は1歳6か月児の母親と類似の傾向を示しているが、子どもが小さいうちは育児に専念するのがよいの項目には57%の価がみられ、母親の育児への強い役割意識がみられる。また、男性も積極的に育児に参加すべきであるという項目には70%台の価がみられ、育児に対する父親の参加を強く望んでいる。一方、「どちらかという反対」という者も含めて反対者の割合をみると、1歳6か月児を持つ母親が示したと同じ項目に高い価を示している。3歳児の子どもを持つ母親に1歳6か月児を持つ母親よ

りも特に高い価を示している項目は、子どもに対する母親の愛情には父親といえどもかなわない、の項目で12%高い37%の価を示している。また、育児は女性の役割であるの項目には7%高い51%の価がみられ、育児における強い男女平等意識を示している。

母親の対人関係

7つの対人関係の場面を設定し、それぞれの場面に対して主人、子ども、自分の父、自分の母、主人の父、主人の母、自分のきょうだい、主人のきょうだい、学生時代の友人、仕事上の友人、近所の人等の中から適当な人を何人でも選ばせた。結果については、各場面において主人を選んだ者の割合を図示した。1歳6か月児を持つ母親についてみると安心して一緒にいることが出来る人は主人と答えている者は95%に達している。しかし、一緒に行動して楽しい人、楽しく話が出来る人、つらい時困ったとき相談出来る人、心から信頼している人、その人のためなら出来るだけのことをしてあげたいと思う人等の5項目には、主人と答えた人は70%台の価を示している。このことは、20%台の母親が自分と主人との関係を冷めた眼でみているということである。

同様に3歳児を持つ母親についてみると、1歳6か月児を持つ母親に比べて、心から信頼し

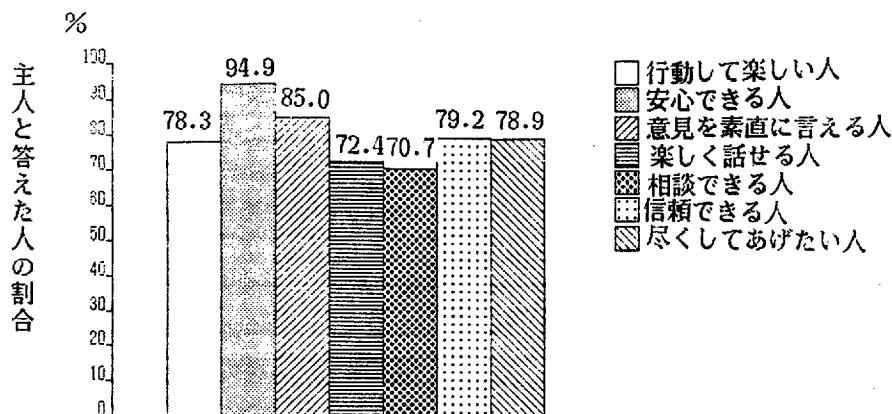


図1 対人関係（1歳6か月児の母親）

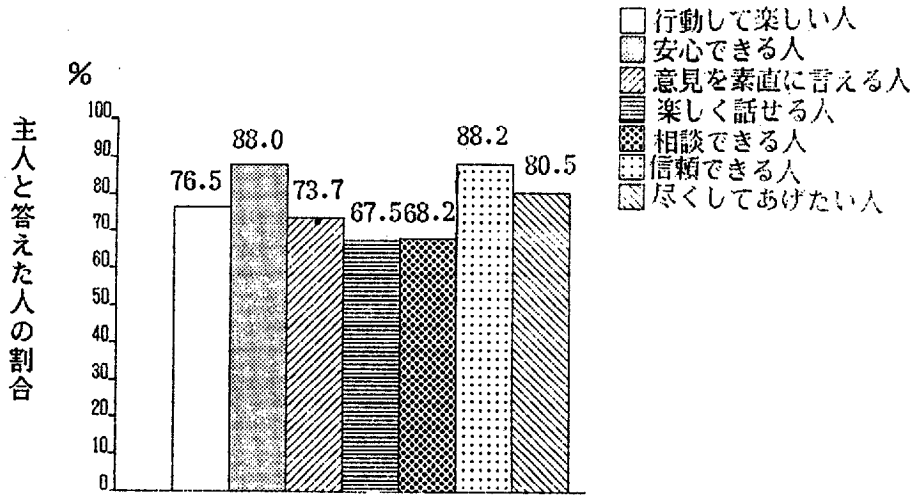


図2 対人関係（3歳児の母親）

ている人、その人のためなら出来るだけのことをしてあげたいと思う人等の2項目に、主人と答えている母親の割合が若干高くなっている。つまり、母親と主人との関係は基本的には安心と信頼、おもいやりやいたわりによって結ばれていると見ることができる。その他の項目はすべて60%から70%台の低い値である。特に、楽しく話が出来ない、つらい時困ったときに相談出来ないと答えている者が、30%近い値でみられ、これらの要因が1歳6か月児を持つ母親と同様に育児不安を増大させ、深刻化させていると考えられる。全ての母親が主人との関係において不平や不満がなくなり、育児を含めて楽しい毎日が送れるように援助する、地域社会におけるプライマリーケアの組織化が要求される。

まとめ

以上、1歳6か月児を持つ母親と3歳児を持つ母親について育児不安、日常生活感情、育児についての母親の役割意識、夫婦関係、日常の対人関係等を検討した。得られた結果の主なものは以下の通りである。

(1) 育児不安については、1歳6か月児では体の発育に、3歳児では性格、健康、知能等に不安を持つ者が多い。相談相手は主人が一番多いが、一緒に考え一緒に改善への努力をしてくれる主人はすくない。また、自分の育児能力に

についての不安は多くの者にみられ、とまどいを示している。

(2) 日常生活感情については、両群の母親ともいらいらしたり、あせったり、毎日がなんとなく面白くないという者が多い。特に3歳児を持つ母親には、生きているという張り合いがない、育児がわずらわしいと答えている者が10%強みられる。

(3) 夫婦関係については、両群の母親とも主人と一緒にいても心がなごまない、言いたいことははっきり言えない。話をしていて楽しくない等と答えている者が10%台の値でみられる。特にこの傾向は3歳児を持つ母親に顕著である。

(4) 育児における母親の役割意識については、両群の母親とも子どもが小さいうちは母親は家において育児に専念するのがよいという育児への強い役割意識と、男性も積極的に育児に参加すべきであるという育児への平等意識が強く示されている。特に前者は3歳児を持つ母親に顕著である。

(5) 母親の対人関係については、両群の母親とも主人を心から信頼できず、一緒にいても楽しく話もできず、一緒に行動しても楽しくなく、つらい時困った時でも相談できず、主人の為にはできるだけことはしてあげたいとは思わない、と答えている者が20%~30%みられ、冷めた眼で主人との関係をみている者が多い。この

傾向は3歳児を持つ母親に顕著である。
以上の沖縄県における調査結果を基に作成し
た父母を対象にした質問紙調査の結果について

は現在集計中の段階にあり次年度に報告する予
定である。

Abstract

Study on Formation of Parental Attitudes on Infant Rearing and Its Evaluation

Taneaki Takahashi, Akira Takano, Kaname Komiyama,
Sachie Shindo, Masami Ohinata

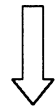
The subject of this year's study was to determine the relationships between the anxiety of the mothers in nursing infants with the husband and wife relationship, the awareness towards the roles as father and mother and the mental condition through a questionnaire survey carried out on mothers of Ishigaki Island, Okinawa Prefecture. The survey was targeted towards mothers with infants between the ages of one and a half to three years old. The results of the survey were as follows.

- (1) On the kinds of anxiety in infant rearing, main concerns were the child's physical growth in the case of mothers with infants of one and a half years old, while the main concerns were the child's character, intelligence, and health in the case of mothers with infants of three years old.
- (2) On the mental condition of the mother's daily life, there were many mothers who complained that their daily life was not interesting and that they became irritated often.
- (3) On husband and wife relationships, there were many mothers with infants three years old who expressed dissatisfaction such that even when they were with their husbands, their minds were not at rest and that they could not even say what they want to their husbands.
- (4) On awareness towards the roles of the parents, there were many who expressed that the mother should devote herself to bringing up the child at home and those that expressed that the father should also participate actively in raising the infant.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 沖縄県石垣島に在住する1歳6か月児を持つ母親64人と3歳児を持つ母親99人について育児不安、日常生活感情、育児についての母親の役割意識、夫婦関係、日常の対人関係等を質問紙によって調査し検討した。得られた結果の主なものは以下の通りである。

(1) 育児不安については、1歳6か月児では体の発育に、3歳児では性格、健康、知能等に不安を持つ者が多い。相談相手は主人が一番多いが、一緒に考え一緒に改善への努力をしてくれる主人はすくない。また、自分の育児能力についての不安は多くの者にみられ、とまどいを示している。

(2) 日常生活感情については、両群の母親とも、いらいらしたり、あせったり、毎日がなんとなく面白くないという者が多い。特に3歳児を持つ母親には、生きているという張り合いがない、育児がわずらわしいと答えている者が10%強みられる。

(3) 夫婦関係については、両群の母親とも主人と一緒にいても心がなごまない、言いたいことははっきり言えない。話をしている楽しくない等と答えている者が10%台の割合でみられる。特にこの傾向は3歳児を持つ母親に顕著である。

(4) 母親の役割意識については、両群の母親とも子供が小さいうちは母親は家にいて育児に専念するのがよいという育児への強い役割意識と、男性も積極的に育児に参加すべきであるという育児への平等意識が強く示されている。特に前者は3歳児を持つ母親に顕著である。

(5) 母親の対人関係については、両群の母親とも主人を心から信頼できず、一緒にいても楽しく話もできず、一緒に行動しても楽しくなく、つらいとき困った時でも相談できず、主人の為にはできるだけことはしてあげたいとは思わない、と答えている者が20%~30%みられ、冷めた眼で主人との関係をみている者が多い。この傾向は3歳児を持つ母親に顕著である。